

これは従來の我が考古學關係の著述が多く遺物遺跡の解説たるに過ぎまゝにして、やゝもすれば骨董觀され初學者を誤る狀態ある斯學の現狀に對して、これが科學的立脚地を明にして、まさに一個の科學たるの面目を意識せしむるもの、我が考古學が其の進運の途に就きて、これを修めんとする者多きを加ふるの今日に於いて、本書の出版は此の點にても斯學の發達上深き意義を認めらるべきなり。(大燈閣發賣、價三、五〇)(梅原)

● 天心全集

日本美術院編

美術學校長の、子を去つて自己の理想の實現を期して日本美術院を創めた岡倉覺三の十年祭に當つて同院の人が敬虔な態度で編纂した同氏の全集である。全篇三冊から成り、一は曾し雜誌等に載せられた論文及び報告書詩歌、書翰、講演、筆記、明治二十四年に美術學校での講義「日本美術史」を收め、巻頭に小照、小傳及び年譜が添へられてゐる。二は英文になつた著作の蒐集であつて、「The Heart of Heaven」を名づけられてゐる。内容は主として英詩、書翰、劇詩と物語、論說、報告の類であ

るが、同氏の主著として歐米に高名を走せた The "Ideals of The East," "The Awakening of Japan," 及び "The Book of Zen" の三書が收められてゐないのは其の理由を解するに苦む所であつて、甚だ遺憾に感ぜられる次第である。併し此の三書の抄譯は共に第三冊目の「歐文著書抄譯」の内に收められて居るので其の大意に通ずる事は出来る。三冊目は此の三書の抄譯、外に米國の雜誌、報告書等に載せた論說四篇の抄譯を附し、附録として東京帝國大學での講義泰東巧藝史の梗概、知友遺族の追想録が添へられてゐる。本書の内に特に吾々の注意を惹くものは美術史の講義である。明治二十四年のものであつて、本邦に於ける最初的美術史であるを稱せられてゐるが其の透徹せる意見に富んでゐることは感歎に堪へない。英文の「東洋の理想」と「日本の覺醒」は共に一種の文化史であつて外國文化の輸入よりも其の文化を統一した内部の力を非常に重要視してゐる所に其の書の特徴がある。岡倉氏は此の書によつて歐米人に對し日本の偉大なる文化の爲めに頗る氣を吐いたものである。今は兩書共に稍稀觀に屬して其の複刻を見なかつたのを甚だ残念に思ふが、幸

に其の抄譯の出來たことは同書の内容を廣く世間に知らせるには却つて便利多いことであらう。(日本美術院發行、非賣品)

●南米美術裝飾圖集

島田貞彦著

三五會圖集の一として發刊せられたもので、二十九葉六十二圖の圖版から成り、周到な解説が附せられてゐる圖版はコロタイプ版であるが、内數葉は美麗な原色版のものもある。材料は主としてベスラー氏の「古代ペルーの美術」に發表せられた伯林博物館の藏品と京都帝國大學所藏のペルー土器に採つて選集したもので、序説として濱田耕作博士の筆になつたペルー考古學に就いての詳細な叙説がある。本圖集は從來我が國人士に餘り多く知られなかつた亞米利加考古學に關する興味と知識を開拓する好著たるを失はないであらう。(京都寺町夷川文華堂發行、定價三、五〇)(以上岩橋)

彙報

●讀史會

例會 五月二十六日午後六時より學生集會所に於て開

催出席者喜田教授、中村講師、富森學士、岩橋、井川、末岡、加藤、佐古、勝峰、中原、石川、三浦、宮崎の諸君にして劈頭幹事より中村講師就任祝賀新入會者歡迎の挨拶あり次で左の講演に移り十時散會せり。

一、元祿頃の大坂商人氣質と其生計狀態に關する實踐

方法論的考察(第二回) 佐古 慶三君

生計狀態の量的測定を試みる所以及其方法論第一次的計數材料の缺乏、第二次的計數材料の活用私見、その爲めの時代曲線の創定と横井博士幸田學士等の方法、人別改に關する統計學的吟味、幸田學士の三郷人口増減に關する説明と私見、三郷人口曲線と穢多人口曲線の相異と其原因等の諸項に就き、氏獨特の詳細なる説明ありき。

一、惡物 文學博士 喜田 貞吉君

變態心理精神病學は物憑即「憑かれたる者」を研究す吾